

# 三郎池 (さぶろういけ)

## 位置図



## 諸元

貯水量	1,760 千m <sup>3</sup>
満水面積	38.8 ha
集水面積	530 ha
受益面積	417 ha
堤高	14.2 m
堤長	392 m

三郎池はもともとは「三谷池」と呼ばれていました。満濃太郎・神内次郎・三谷三郎と称されている県内を代表するため池です。

築造時代は不明ですが、寛永五年（1628）当時の讃岐国の領主、生駒高俊（第四代）は、家臣の西嶋八兵衛に命じて干ばつ救済のため、各地にため池を築造・修築したその一つと伝えられています。

三郎池にはこんな言い伝えがあります。母と子の“蛇”がいて母の蛇は体が大きく三つの谷にまたがる三郎池でも窮屈なほどでした。西の方には満濃池という大きな池があるという村人の話を子の蛇が聞き、子の蛇は母に満濃池にはたくさん水がありますよと言いました。母の蛇はある嵐の夜に竜巻と共に西へ飛んで行きました。しばらく経って子の蛇が堤で遊んでいると、村の子供達がやってきて子の蛇をいじめました。すると子の蛇の泣き声を聞きつけて母の蛇は満濃池から竜になって子の蛇の元へ飛んで来たと言われています。

三郎池は数度の改築が行なわれ特に、昭和4年から昭和16年にかけて堤防の嵩上げ・樋管の改修等で貯水量176万トンとなり、ほぼ現在の三郎池に生まれ変わりました。

昭和50年には、この三郎池にも念願の香川用水が直接導水され、長年悩まされた渇水からようやく開放されるようになりました。

また昭和6年の改修から50有余年の歳月を経て、老朽化が進み堤防決壊の危険も憂慮される状態となったため昭和57年度～平成3年度にかけて全面改修を実施し、平成4年度及び平成7年度に環境整備を行い市民の憩いの場として活用されています。最近では地域住民が水仙や彼岸花の植栽を行い、ため池に愛着をもって管理しています。



三郎池



三郎池の蛇